

第7期さくら市高齢者総合保健福祉計画自己評価に対する評価・意見

①-①自立支援・介護予防・重度化防止について	さくら市の今後の取り組みについて
【評価】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護・認知症安心ガイドブックの作成は事業所がわかるため、有用だった。</li> <li>・個人としては、ケアマネ連絡協議会などで、薬剤師の活動を紹介したかったが、実行できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、介護・認知症安心ガイドブックにより地域の専門職、市民に対して医療・介護資源の周知を行ってまいります。</li> </ul>
【要望】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋以降特に11月以降は発熱者が増加する傾向がありますので健診等の未実施者が出ないように今から方法を検討してください</li> </ul>	<p>現在検診については、完全予約制をとり、30分間に30人のみの実施としています。今後も安全に検診を受けられる体制を検討してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・さくら市内で訪問型サービスの事業者が増えてほしい。</li> </ul>	<p>新規事業者が参入しやすいような制度について検討するとともに、介護人材の確保についても努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・通所型サービスAの実施事業所が全体の半分くらいしか導入されていないので、さくら市内の全事業所が導入できるようにしてほしい。</li> </ul>	<p>通所サービスについては、制度の見直しとともに、多くの事業所で導入していただけるように周知してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問型サービスを柔軟に活用することで、ひとり暮らし世帯の安否確認等もできるので、訪問型サービスを行う事業者が運営しやすくなるように検討をしていただくと助かります。</li> </ul>	<p>より柔軟な運営ができるような制度について検討するとともに、介護人材の確保についても努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問型サービスを他市町村に事業者指定を行っても、地域（特に穂積・鹿子畑・金枝）によっては、遠距離のため対応できないということがある。例えばこんでは、喜連川地区の訪問型サービスを受け入れているが、要介護認定者のサービス提供も受けているため、供給が難しい。訪問介護全体の人員・事業者の不足について、市で検討してもらいたい。</li> <li>また、通所型サービスについて、とある事業所から送迎をデマンドタクシーで利用してもらうのはどうかという意見があがった。</li> </ul>	<p>新規事業者が参入しやすいような制度について検討するとともに、介護人材の確保についても努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護でも認知症の方が増えており、家族だけでは対応が難しいと実感しています。地域市民（近所の方も）が認知症の方へ声かけしやすい環境・風土ができると良いと思っています。</li> </ul>	<p>社会全体への認知症の理解を深めるための取り組みとして認知症サポーター養成講座を実施しています。開催場所としては学校や通いの場等が主ですが、講座を更に周知するとともに多くの市民に参加してもらえる機会を増やしていきます。</p>
<p>コロナ影響の中はほぼ計画通り、実施出来ていたと思う。</p> <p>総合事業のサービス利用してもらうためには、どの段階で説明をするか、どう理解してもらうかを検討するべきではないか。</p> <p>特に、訪問型サービスAの利用してもらうためには、本人や高齢者夫婦が生活するための支援であること、高齢の妻の負担を軽減するための支援であることを理解してもらう必要があると思う。</p> <p>サービスを利用する年代は、共働きを経験している方が少ない年代なので。</p> <p>サービスの利用と生活支援としての理解を得る助言者として、子世代への説明を丁寧に行っていると思うが、介護保険制度を利用する段階からの説明では遅く、保険料を支払う年代頃から大まかな内容を知っておく必要があるのではないか。改正の内容についても大まかに説明をしておくのと介護保険制度をイメージし易い。</p>	<p>今後も介護サービス対象者は増加する見通しですので、より幅広い世代に介護保険制度の理解を深めてもらう必要があると思います。どのような取り組みが効果的か早急に検討していきます。</p> <p>制度改正などの内容説明は、集団指導等を開催し、周知に努めていきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援型ケア会議を感染症に対応した方法で再開する予定はありますか。</li> </ul>	<p>会議の性質上、オンライン開催等が難しいため、感染症対策を講じた上で開催する予定です。</p>

①-②生活支援体制整備について	さくら市の今後の取り組みについて
<b>【要望】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉タクシーの利便性があまりよくない印象なので高齢者向けに利用の説明会やパンフレットが必要かもしれません。帰りの待ち時間がかなりあるので検討を</li> </ul>	<p>福祉タクシー利便性の向上を図るため、今年度より1回の利用制限枚数を2枚→4枚に変更いたしました。今後も利便性向上に向けた検証や、高齢者の更なる周知に努めていきます。デマンド交通については、関係機関と連携を図りながら利便性向上に努めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援コーディネーターの存在が今後の介護保険制度を良い方向に向かわせることになると思う。 地域づくり勉強会に参加した方の思いと具体化するための協議を行う現場に、幅広い年代（現役世代、大学生、専門学校生、高校生等）を入れて話し合う機会を設けてはどうか。 若い世代と話し合う事で、高齢者の思いや高齢になることを深く理解してもらう機会になるのではないかと。 生活支援、介護予防サービスの内容をよく理解し、利用してもらうこと、支援する担い手になってもらえる。 例えば、高校生、専門学校生、大学生に地域の高齢者のごみの分別、ゴミ出しのボランティアの協力者になってもらうことが可能となるのでは。 市民全体で協力していくきっかけに。社会人になる前に世の中を知るきっかけ、専門職に就くきっかけになるのではないかと。</li> </ul>	<p>幅広い世代の方が介護保険制度や地域づくりについて知り、興味を持つような取り組みをしていきたいと考えております。 例えば現在では認知症サポーター養成講座を、市内の小中学校の授業の中で実施していますが、このように若いうちから制度を知る機会を増やせるように検討していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援協議会と地域づくり勉強会が連動するようにしてほしい。</li> <li>地域づくり勉強会は、さくら市住民、一般市民がもっと参加できるようになってほしいです。</li> </ul>	<p>両者の情報共有や連携が進むように努めてまいります。また、地域づくり勉強会は現在はコロナ禍により参加対象を絞って開催していますが、今後は幅広い世代の方が参加できるよう周知していきたいと考えております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者世帯や単身世帯が今後も増加していくと予想できるので、高齢者の方々が安心して生活できるよう、緊急時に訪問看護や訪問介護事業所と連携がとれるようなサービスがあるといいなと思います。24時間連絡体制が整っている、看護小規模多機能の新規整備を検討して頂きたいです。</li> </ul>	<p>第8期計画において、サービス需要と供給を考慮しつつ必要な計画を策定していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>各地域においてサロンが開設しているが、各サロンにおいて、統一した運動や体操を行えるよう内容を構築しながら運動指導員を育成配置し、介護予防につながればと思う。</li> </ul>	<p>市が考案した「はつらつ体操」全国的に普及している「いきいき百歳体操」とちぎ国体の「いちご一会ダンス」などを地域に広めていきたいと考えております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン動画による説明はあるのですか。</li> </ul>	<p>必要性を確認しつつ検討してまいります。</p>

①-③認知症施策について	さくら市の今後の取り組みについて
<b>【要望】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座の受講者が年々増加し、市民の高齢者、認知症に対する理解が深まる機会となっている。</li> <li>現役世代だけでなく、市内にある高校、専門学校、市内在住の大学生などにも受講の案内をすることで、現役世代にも繋がっていくのではないかと。</li> <li>介護を行っている時期、同居をしている家族には、高齢者の本音が届いていない事もある。例えば、平日共働きで働いているので、休みの日に病院に連れて行ってとは言えないという高齢者の本音など。近すぎて、本人たちの気持ちを決めつけてしまっている事がある。</li> <li>高齢者の本人の話しや高齢になること、介護保険制度について等を知る機会となると思う。</li> </ul>	<p>認知症への理解を深めるための普及啓発を推進しており、平成29年以降は市内全ての小学校で認知症サポーター養成講座を実施させていただいています。他にも氏家中学校やさくら清修高等学校でも、選択授業ではありますが実施させていただいています。引き続き市内の学校等とも連携を取りながら認知症サポーター養成講座を実施していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・さくら市内のキャラバンメイトが一堂に会する連絡協議会のようなものが、以前にありました。今後予定がありますか。</li> <li>・認知症初期集中支援チーム員会議が機能するようにしていきたい。</li> <li>・認知症サポーターの受講者数は増えていますが、活躍の場はあるのでしょうか。</li> </ul>	<p>今後認知症の人やその家族の支援ニーズと認知症サポーターを中心とした支援を繋ぐ仕組みであるチームオレンジを整備・発足していきます。それにあたり、キャラバンメイトから意見を聴取したり、チームの活動に関わっていただければと考えています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知機能低下は、予防や対策で進行を遅らせたり、緩和できたりするというエビデンスもあるので、今後も事業者の運営を支援して頂きたい。また今後も認知症の方が増加すると予想されるので、地域支援に中心的な役割ができる、グループホームの新規整備をお願いしたいです。</li> </ul>	<p>県の補助制度の周知等に努めてまいります。また、施設の新規整備については、8期計画の中で検討してまいります。</p>

②介護給付適正化について	さくら市の今後の取り組みについて
<b>【要望】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療情報と突合縦覧点検の専門的な知識を持つ職員の確保、ノウハウ蓄積の継続をお願いしたい。</li> <li>介護保険を利用する年代と制度の内容をよく理解しようとする時期が同じため、十分な理解がないまま必要に迫られて利用している方が多いのではないのでしょうか。</li> <li>介護保険料を支払う時期に、制度の概要を学ぶ機会を設け、制度が改正になる度に、大まかな説明（パンフレット）があるとよいと思う。</li> <li>必ず自分たちも利用するようになる制度なのだから。</li> </ul>	<p>医療情報との突合点検については現在はほとんどを国保連合会に委託して実施しております。今後の実施方法を検討していきます。</p> <p>若い世代から制度理解ができるような周知方法を検討していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアプラン点検の開始はいつになりますか。</li> </ul>	<p>現在は事業所から提出されるケアプランと包括支援センター職員を交えたケアプラン点検会議のみが実績の状況です。今年度から県が実施するモデル事業である介護給付実績活用支援事業に本市が対象となっており、現在県の助言を受けながらケアプラン点検対象の検討を進めています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業所がケアプランの自主点検ができるような環境を整えたいと思います。</li> </ul>	<p>各事業所のケアマネジャーに参加いただく形のケアプラン点検会議の開催等を検討しております。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅改修や福祉用具の購入に関して、適切に使用できていない（本人に合っていない）ケースがみられることがある。</li> <li>・改修・購入後に使用状況を確認し、適切に使用できているかをチェックする必要があると思われる。</li> </ul>	<p>現在は住宅改修施行前施工後の状態を、添付された写真にて確認していますが、利用者の状況に合わせた施行か否かの確認は今後の課題として、ケアマネジャーと連携を図りながら、確認できるよう検討を進めていきます。</p>